

早期発見・早期解決が重要な歯科衛生士に欠かせない 情報源のひとつである咬翼法について

KerrTM



株式会社Team Grin'n Tokyo 代表取締役
国際歯科衛生士交流会 TeamGrin'n 代表
日米歯科衛生士

藤森 直子 先生

レントゲン読影力向上のために

みなさんの現場ではレントゲン撮影ルールは確立されていますか。長い間レントゲンを撮っていないとか、定期的にメンテナンスに来ているのに RCT 治療が必要になったり、予期しないタイミングでインプラントが脱落したりすることはないでしょうか。これらは患者様と信頼関係の妨げや、リコール率の低下、患者様の定着に影響がでる原因の一つといっても過言ではありません。

定期的なレントゲンの撮影は、確実に口腔内を理解する上で最低限必要な情報源であり、歯科衛生士は撮影こそできませんが、読影をしていくトレーニングをする必要があります。

レントゲン撮影より得たい情報とは

プロケアとセルフケアのバランスを保つことで、長期的に良好な口腔内を維持することも歯科衛生士と患者様との共通のゴールとして重要となりますが、病状の進行や異常を察知する方法として、ニューヨーク大学や従事していたアメリカのクリニックでは定期的に咬翼法で撮影し、変化を診ていくことが重要視されていました。日本では咬翼法を撮らなかったケースも見受けられましたが、咬翼法を撮る事で歯科衛生士がメンテナンス上見ていく項目として挙げられる骨吸収状況や骨レベル、コンタクトのエナメル質の初期カリエス、歯石などの付着物、歯根膜拡大、セメント質剥離なども明瞭に情報を得る事ができます。

咬翼法を取り入れるメリット

現在、日本全国のクリニックで院内研修を行わせていただく中で(写真1)、Kerrの咬翼法フィルムホルダーを使用してレントゲンの指導を行うと、みなさんその必要性がしっかりと理解できる事、また、デンタルと同様に撮影法が簡単な事、フィルムホルダーを導入しやすいことなどから、定期的に咬翼法を取り入れるクリニックが増えています。また、特にインプラントの変化を診る為には、同じ角度で撮影し、骨レベルを定期的にみていく必要がありますが、この様に咬翼法を撮影していくことで炎症の始まりや異常を早い段階で察知し、対応することができます(写真2)。その結果、インプラントの寿命も延び、リスクの高い部位への歯科衛生士の理解が深まることで、より安全で信頼度の高い歯科衛生士のトリートメントプランを確立しやすくなります。

レントゲン撮影に抵抗がある方や初期カリエスの発見(写真3)など、臨床現場での患者教育など幅広く活用しやすいため、常に歯科衛生士と患者様が同じページに立ち、同じゴールに向かってメンテナンスをしていくことが可能となります。



1. 院内研修の様子。
写真協力:AOデンタルクリニック牛込神楽坂



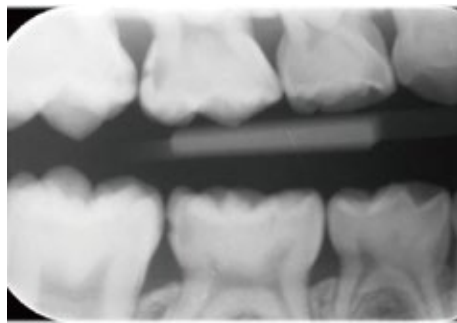
2-1. デンタルでは骨吸収が疑われるケースを、咬翼法で撮影してみると・・・。



2-2. 問題がないことがわかります。

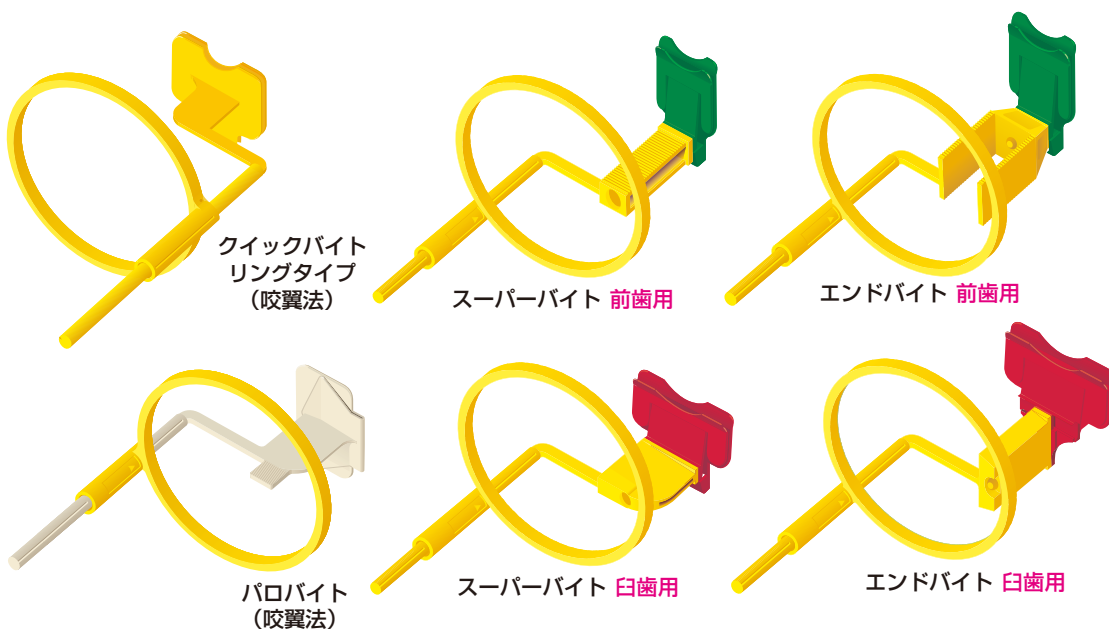


3-1. 見た目は大丈夫!という診断も、咬翼法を撮ってみると・・・。



3-2. コンタクトに カリエスがあることがわかります。

フィルムフォルダーシリーズ



製品情報はこちら
<https://onl.la/4qrXWwN>

一般医療機器 歯科用 X線ビームアライメント装置
医療機器製造販売届出番号: 13B1X10405100100

ご注文は、お取り引き歯科ディーラー様までお願いいたします。



Webサイト

Envista エンビスタジャパン株式会社
〒140-0001 東京都品川区北品川 4-7-35 御殿山トラストタワー
TEL:0800-111-8600 FAX:03-6866-7273
www.envistaco.jp

KKSAJB2308V1 KR-0272